

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【地震一口メモ】

「南海トラフ地震特設ページ -命を守るための情報と行動-」について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

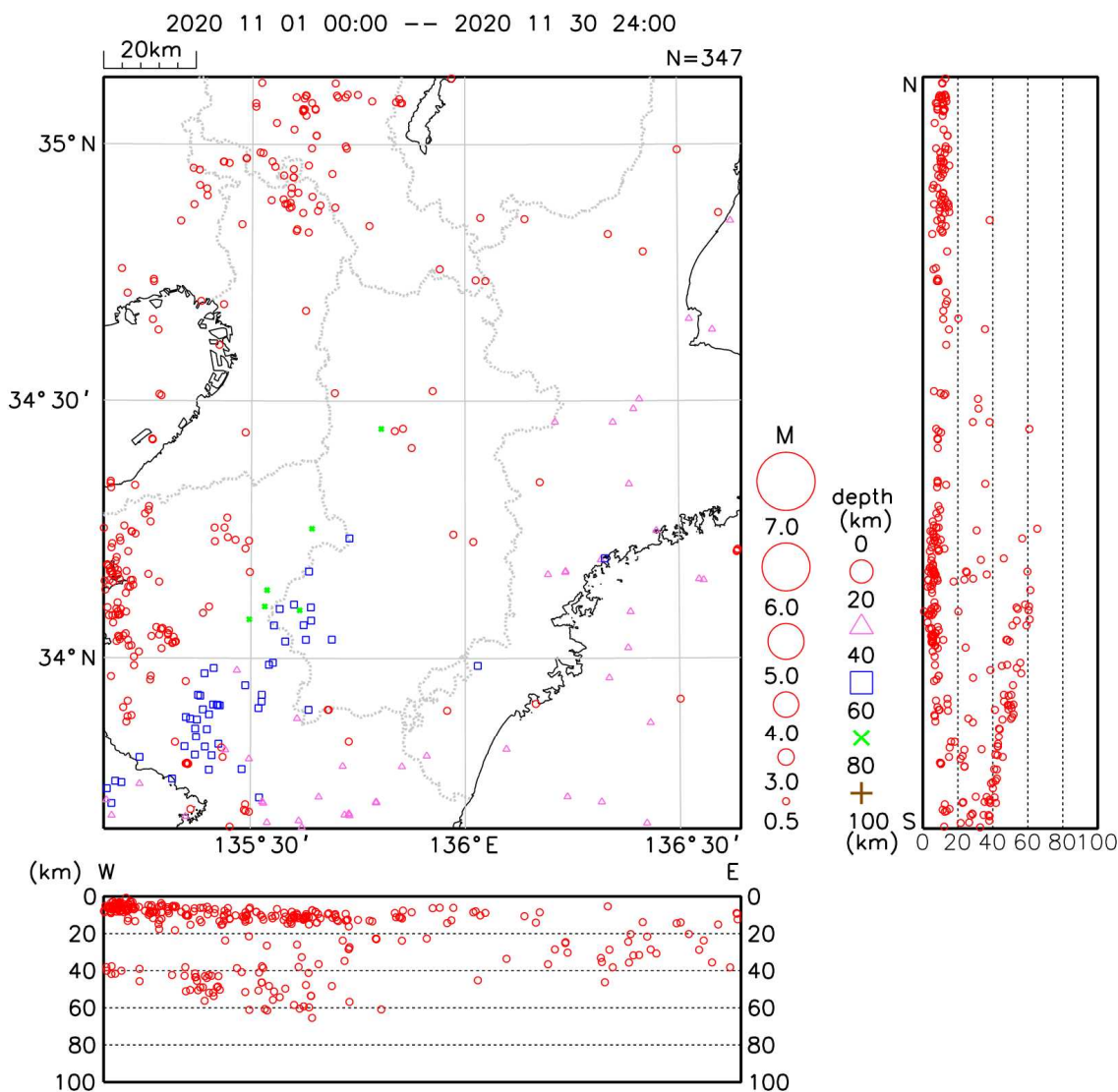
奈良地方気象台

2020 年 11 月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

奈良県内で11月に震度1以上を観測した地震はありませんでした。

【地震一口メモ】

～「南海トラフ地震特設ページ -命を守るための情報と行動-」について～

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね 100～150 年間隔で繰り返し発生する地震です。前回の昭和南海地震（1946 年）から 70 年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。

南海トラフ巨大地震が発生した場合、内閣府中央防災会議の資料によると、奈良県の広い範囲で震度 6 強から 6 弱の強い揺れが予想され（下図参照）、奈良県でも甚大な被害が発生する可能性があります。

大阪管区気象台では、南海トラフ地震の基礎知識や気象庁が発表する各種情報などを紹介し、命を守るための行動につなげていただくため、「南海トラフ地震特設ページ -命を守るための情報と行動-」を開設しています。

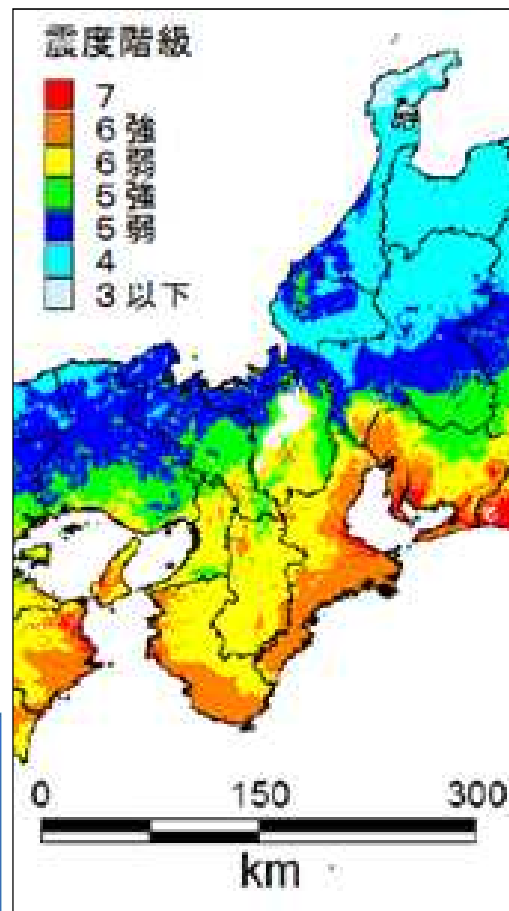
下記 URL または大阪管区気象台ホームページトップのバナーからご覧ください。

○南海トラフ地震特設ページ
- 命を守るための情報と行動 -
<https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/nankai/index.html>

○大阪管区気象台ホームページ
<https://www.data.jma.go.jp/osaka/>



大阪管区気象台ホームページ
「南海トラフ地震特設ページ」のバナー



南海トラフ巨大地震の震度分布
(2013 年 中央防災会議, 強震動生成域を陸側寄りに設定した場合)

本紙は奈良地方気象台のホームページでも過去 4 年間程度分掲載しています。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>

